

1. 評価報告概要表

作成日 2007年12月25日

【評価実施概要】

事業所番号	1070800238
法人名	特定非営利活動法人 ひまわり会
事業所名	グループホーム一番星 渋川
所在地	群馬県渋川市行幸田532-1 (電話) 0279-60-7650

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成19年12月14日

【情報提供票より】(19年 11月 30日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14年 3月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	5人, 非常勤 5人, 常勤換算 0.75

(2)建物概要

建物構造	木造造り		
	2階建ての,	1階 ~	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	その他:9000円(1日300円)	
敷金	有 200,000円			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円

(4)利用者の概要(11月 30日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	0名	要介護2	1名		
要介護3	1名	要介護4	6名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	64歳	最高	96歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	大谷内科クリニック
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者は、看護師、介護支援専門員であり、高齢者事業に熱意を持って臨んでいる。門や塀に囲まれた民家を改造し、「生まれ育った家のように」その理念を实践すべく生活感を感じるホームである。入居者の生活暦を把握し、本人本位に生活出来るように支援をしている。近隣地域や市にたいしても積極的に関わりを持つようになっている。職員は経験者が多く、入居者と一緒に楽しく過ごしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の改善課題については、管理者と職員共に理解し、その対応については風呂の改造やタオルの個別利用について取り組み、改善されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価に対する取り組みは、管理者と職員と共に職場会議で討議し、日常業務の自己点検に位置づけを行っている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、会議では利用状況を報告している。しかし、評価事項については議題としていないので、今後会議開催においては自己・外部評価項目を議題として協議し、評価事項のモニター役となってもらいサービスの向上に努めることを期待したい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情対応等の窓口を設置し、管理者が対応している。面会時に家族の様子を見ながら、意見を言い易いよう声かけをする等気配りをしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣の人々の訪問や日常的な付き合いがある。町内会に加入し、祭り等の地域の行事や活動に参加し地元の交流に努めている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の立場に立った「生まれ育った家のように」という家庭的な環境の下での理念は作り上げている。しかし、地域密着型サービスとしての理念については、明示されていない。	○	地域密着型サービスとして、入居者が地域の中でその人らしく生活することが出来ることを反映した地域との関係のあり方について、理念への明示を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、日々のミーティングで、管理者、全職員が共有し、入居者に対してより良い生活を提供できるよう実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の方に、柿や栗などの季節のものを届けていただいたり、散歩の時など入居者と挨拶を交わす等、日常的な付き合いがある。町内会に加入し、祭り等の地域の行事や活動に参加し、地元の交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と職員は、自己評価、外部評価を実施する意義を理解をしている。昨年の改善課題には、風呂の改造やタオルの個別利用等の具体的改善に取り組んでいる。自己評価については、職場会議で討議され、日常業務の自己点検と位置づけ取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議が行われている。会議には、自治会長、福寿友好会会長、家族、包括支援センター職員、管理者、経営者が参加している。会議では、利用状況等の報告がなされているが、評価事項について議題としていない。	○	運営推進会議においては、自己評価や外部評価を議題として、協議を行い、今後評価事項のモニター役となってもらいサービスの向上に努めることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者に、日頃よりホーム内で課題となっていること等について報告や相談をし、市と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。市の見学者などの受け入れもしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	いつもと様子が違う等利用者の状況により、家族に電話やメールなどで連絡している。面会の時には、介護記録を見ていただいたり、写真等を利用して、ホーム内の生活ぶりを報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情対応等の窓口をホーム内に設置し、管理者が対応している。重要事項説明書に明示し、説明している。また、外部の苦情申立先についても連絡先等を明示し説明している。面会時に家族の様子を見ながら、家族が意見を言い易いように声かけをする等気配りを行い、意見や苦情を積極的に聞くよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はない。管理者は職員と頻繁にコミュニケーションをとり、職員が働きやすいように、また、離職者が出ないように努力している。離職がある場合は、入居者がダメージを受けることがないよう引き継ぐのに十分に時間をとる等考慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、外部の研修に出席し、参加後は会議で報告を行っている。事業所内では、現場の実践を重視して、具体的にケアにどう活かせるかトレーニングを進めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会の会議や研修に参加し、他の事業所と交換研修を行い、同業者と交流する機会を持ち、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族にホームを見ていただき、本人がホームに馴染めるように見学や1日体験などを行っている。また、家族等と話し合い、生活歴などを十分に把握し、安心して生活が出来るように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者からは職員に「ありがとう」「すまないね」など言葉かけがあったり、煮物の味つけなどについても教えてもらい、入居者を先輩として感謝をし、お互いに支え合う関係づくりに努めている。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いや希望については、日々の関わりのなかで、その時々に応じた適切な声かけに注意をはらって、把握に努めている。そうしたなかで外食、ビデオ、墓参りなどの希望も出てきている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回の職員会議や時々のカンファレンスで意見交換をして、計画作成をしている。家族等との話し合いや面会時に希望を聞いたりしているが、家族との接触の機会が少ない。	○	介護計画作成にあたっては、家族の意見を聞き、反映されるよう、家族との接触をより多く図り、話し合われることを期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、定期的に行われている。しかし、定期的な介護計画の見直し以前に、入居者の状況の変化が生じた場合は、即対応しているが、その都度の計画書の作成にいたっていない。	○	入居者の状況の変化に応じ、介護計画の見直しを行い、全員で計画書による情報を共有し、ケアにあたることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の状況により、医療機関受診の送迎や通院介助、また外出の際の同行支援などを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望するかかりつけ医を受診している。また、事業所の協力医等への月2回の定期受診には通院介助を行い、安心して適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早い段階から家族、医師、看護師、職員の話し合いを行い、全員で方針を共有し記録に残している。過去に看取りを行っているが、意思確認書は作成されていない。	○	意志確認を本人や家族に行うとともに、状況に応じ医師、看護師も交えて話し合い、事業所が対応できるケアについても説明を行い、意志確認(書)を作成し、状況変化に応じて繰り返し話し合いそれらを記録し、全員で方針を共有することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の声かけは「さん」を付けており、プライバシーを損ねるような言葉かけなどをしていない。介護記録等の取り扱いについては十分注意し、保管されている。入居者の個人情報については、第三者に提供する場合は事前に文書で同意を得ることを契約書等に明示し、説明している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本を読みたい人、散歩に行きたい人、テレビを見たい人様々であるが、出来る限り本人の希望に沿って、ゆったりとした時間を自由に過ごせるよう心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、一人ひとりの身体状況に応じて、声かけをしながら、その人その人のペースで食事を摂れるよう支援している。職員と入居者は、食事を一緒に摂っていない。日常生活動作の低下によりできる方は少ないが、入居者のなかには、自分の食器を洗い場に運んだり、移動困難な利用者の食器の片付けを手伝ってもらっている。	○	入居者と職員と一緒に食事をとることについて話し合い、取り組まれることを期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、基本的に週2回である。日中だけでなく、2名の入居者が夕方に入浴している等、希望にそって入浴日や時間に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴や体力に応じて、はたきかけ等の清掃、花や観葉植物の水やり、枯葉の片付け、洗濯物干し等、入居者の役割や楽しみを見つけて過ごすことを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やドライブ、ベランダでの日光浴など、本人の希望にあわせ、出来るだけ天気の良い日は戸外に出られるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者や全職員は、鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。しかし、昼休みのみ、家族の了解を得た上で、玄関の鍵をかける時もある。最近では、ほとんど鍵をかけていない。	○	昼休み時間についても、鍵をかけずに安全に過ごせる工夫に取り組むことを期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、榛名防災の協力で消火器等を使用して、火災訓練を実施している。災害時の避難場所として、すぐ近くの公民館が指定され職員に周知されている。また、運営推進会議において地域の人への協力を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の指導の下に献立表を作成し、栄養のバランスに配慮した食事作りに取り組んでいる。また、1ヶ月に1回の体重測定や採血による総蛋白の確認により、食べる量や栄養バランスの指標としている。水分は、1日の摂取量を摂取できるように注意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は民家改造のため、神棚が置かれたり等生活感があり、また、広い廊下やベランダなどから見渡せる日本庭園は季節のうつろいを感じさせ、それぞれの場所で居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、畳の部屋で、ふすまや障子の仕切りがあり、また仏壇や入居者が愛用していたタンスが置かれ、利用者のこれまでの生活を大切に、居室の配慮をしている。		